

第3話 定刻にクアラルンプールに到着

さて、搭乗券のシールの謎が解けたところで、食事と飲み物の販売が始まった。ここでも搭乗券を確認しながら予約済みの旅客と確認すると温かい食事と一緒に、事前予約した旅客には350mlのミネラルウォーターが無料で配布される。私が事前予約したメニューは「Malaysian meal」という照り焼き風チキンとライス、それに付け合わせの野菜だ。見たところ量はさほど多いとは思えないが、日本時間午前1時の夜食には十分だ。味も良いしライスの炊き具合も丁度良かった。周辺を見渡すと既に睡眠に入っている人たちも多い。食べるより早く寝てしまいたい人にはLCCのシステムは最適なのだろう。



味も良いし、量もちょうど良い。この設えであれば回収するゴミの量も少ないだろう

食事が終わった頃になると、CAが小さなポリ袋を持って回りながらゴミの回収をする。そのCAの手にはちゃんとビニール製の手袋が。これなら清潔に素早く回収ができるだろう。

そうこうしている内に、Eu Kong Leong 機長が飛行計画や飛行時間のアナウンスをしてくれた。ここまではどの航空会社でもやることだが、最後に「AirAsiaは様々なキャンペーンを行っているので、是非当社のウェブサイトを見て欲しい」と付け加えた。これには正直

言って頭が下がる思いだ。この会社、徹底しています。

羽田を離陸してから1時間30分が経って機内の照明が消された。誰一人として読書灯を点けている人はいない。

日本時間5時50分、機内の照明が明るくなった。飲み物と機内販売が始まった。機内販売では免税品やキャラクターグッズの販売に加えて、ターミナルビルからKUL中心部まで直行するSkyBusというバスのチケット(9MR)の販売までやっていた。これは便利なサービスだ。

日本時間7時23分、機はまだ暗いKULに着陸、LCC専用ターミナル(LCCT)前のスポットに日本時間7時29分(現地時刻6時29分)に到着した。旅客はタラップを降りてターミナルまで、駐機中の航空機の前を横切るように歩いて行く。途中、別の到着機があつて一旦足止めされる場面もあった。入国検査場もスムーズに通過して羽田で預けた手荷物をピックアップする。既にターンテーブル上では荷物が回っている。これほど早く荷物が出てくることを期待していなかったためか、驚いたというのが正直な感想だ。荷物をピックアップした後、税関職員が立っている場所があるが検査用カウンターが並んでいるわけでもなく、私も特に申告の必要がないのでそのまま通過した。

次に銀行の窓口で両替だ。ここも数人が並んでいるだけなので数分で両替ができた。ここから到着ロビーに向かう通路の両側に簡単なブースが並んでいるのが見える。これらのブースは複数のレンタカー会社の他、LCCTから空港メインターミナルや市街を結ぶバスチケット、更にタクシーのチケットを購入するためのものだ。マレーシアでは空港や鉄道など主要な交通機関のターミナルから目的地の地域毎に料金が定額性になっている。ここ空港からタクシーを利用する場合はこのブースで行き先を告げて料金を前払いし、渡されるタクシーチケットを運転手に渡すシステムをとっているのだから、安心して利用できるというわけだ。

現地時刻7時過ぎ、到着ロビーに出た。ようやく空が明るくなりだしていた。

(続く)



到着ロビーに出る前にブースで必要な交通機関のチケットを購入できる